



1 基本構想

(1) 校訓

強く 正しく 明るく

※最古の学校経営書(S33)に現校訓が記載。(岳洋中の創立はS24年)

(2) 目指す学校

岳洋愛にあふれた「日本一の学校」



ア どんな学校？

(ア) 岳洋愛にあふれた「あいさつ」いっぱい学校

(イ) 「岳洋中校歌」を、生徒が一人でも大きな声で歌える学校

(ウ) 生徒が周りや自分のために、主体的に(生活、授業、自治活動等で)行動する学校

イ 生徒の具体的な行動？

(ア) 日常生活

- ・誰に対しても、岳中愛あふれる挨拶をする。
- ・落ちているゴミを見つけたら、進んで拾う。

(イ) 授業

- ・常に時計を見て時間を意識し、進んで2分前着席の呼びかけをする。
- ・仲間と活発に議論したり、前に出て身振り手振りで説明したりする。

(ウ) 学級や生徒会活動

- ・悪口に対しては「やめようよ」、困っている仲間には「大丈夫」と言える。
- ・災害発生時には「募金しよう」、岳中生のために「〇〇しよう」と提案する。

(エ) その他

- ・雨天でも危険でなければ自力で登下校する等、たくましく行動する。
- ・呼び捨てやあだ名ではなく、「さん」付けで呼び合うことができる。

(3) 学校教育目標

光り輝く「自信を持ち、自分の力を発揮する生徒」

(4) 重点目標

岳洋中全体の目標

みんなのために「自分から考動する」

2 具体的な方策「実践4本柱」



(1) 柱1 自己肯定感の向上

「自分には良いところがある」「自分は大切にされている」と思えなければ、勉強をがんばろう(自分のこと)、周りに優しくしよう(相手のこと)、という気持ちにはなれない。つまり、自己肯定感が高くなければ、主体性は育ちにくい。そのため、実践4本柱の中で、「自己肯定感の向上」は最も重要な取組と位置づける。

ア 称揚のボイスシャワー

- (ア) 基本は、日常のオーバーすぎる位の「称揚のボイスシャワー」。
(イ) 教師が率先垂範し、称揚の温かい雰囲気在校内中に広げる。→ 拍手◎

イ 光輝賞

- (ア) 大勢の生徒が受賞できるよう、良い取組を教師が見とる。(年間90人が目標)
表彰対象は個人とする。
(イ) 推薦と承認
①全教職員は、「あの生徒に光輝賞を取らせたい」と考え、日々称揚したり、周りの生徒に啓発したりする等、**しかけ**をする。
②機が熟したところで、推薦カードを生徒指導主事に提出する。
③該当生徒については、毎週の経営委員会で、生徒指導または学年主任が推薦する。事前に、学年主任が学年職員から意見をまとめておく。
④承認されたら、2週間に一回程度を目安に、昼の放送で表彰する。
(ウ) 賞状は自宅に帰って飾れる豪華なもの。筒に入れて大事に持ち帰り、お家の方にも褒めてもらいたい。
(エ) 賞状はコピーし、生徒昇降口に掲示する。それにより、継続して称揚する手立てとし、岳中ニュースでもお知らせする。

ウ「岳洋愛にあふれた挨拶」の称揚

- (ア) 次のような「岳洋愛にあふれた挨拶」の実践を徹底して称揚する。
・「岳中を挨拶日本一の学校にしたい」という思いがあふれた挨拶。
・「地域の方や来客に、岳中って素晴らしい学校です」と伝えるような挨拶。
・「自分の挨拶で相手を気持ちよくさせたい」という思いがこもった挨拶。
(イ)「遠くからでも」「相手がこちらを見ていなくても」「笑顔で」「大きな声で」「相手を気持ちよくさせられているか」等を生徒会活動で取り上げ、実践を称揚する。

エ いじめの撲滅

いじめがあっては、自己肯定感は向上しない。学校全体でいじめの早期発見、早期対応に努める。いじめがないことを自慢にし、称揚のボイスシャワーの対象とする。

オ その他

- (ア) 委員会、学級における「輝いていた人」等による称揚。
(イ) ステージアンケートの「自分には良いところがある」について、各学年・学級で目標を持って取り組む。(しかける)

→ **「自分は大切な存在である」と自覚でき、自己肯定感が向上する。**
【指標】自分には良いところがある…90%以上

(2) 柱2 たくましさの育成(自己有用感の向上)

自己肯定感に加え、自己有用感(自分は誰かの役に立っている)が高くなければ、自分に自信を持ったたくましい生徒は育ちにくい。そこで、次の2本立てで育成する。

①自分に自信をつけて、内面からたくましさを育てる。

②様々な体験や適切な指導を通して、外側(環境)からたくましさを育てる。

ア ピカピカの表現力(武器)を身につけ、自信をつける。 → 内側からたくましく

(ア) 取組の中心は「総合的な学習の時間」

・「岳洋地域のためになり、地域に発信する」探求学習の実践。

→自分は人の役に立ち、周りを動かす取組をしている。

・ピカピカのプレゼン能力や表現力(生きる力)を磨く。

→山口氏を本校アドバイザーに招聘する。

月に1回程度、プレゼンや表現力向上にかかる御指導を頂く。

(効果的なプレゼン方法、将来を意識した表現力、その他 etc。)

・「光輝発表会」を開催し、岳中生の表現力発表の場とする。【例】1年生…岳洋地域元気プロジェクト、2年生…仕事の魅力、3年生…防災

(イ) 教科横断的な学習(本校は「表現力」)

・日々指導する際にどの教科でも、総合的な学習の時間に培った表現力を意識して授業実践する。

①聞き手を意識した説明、前に出て説明する機会、身振り手振り

②声の明るさや大きさ、立って発表、体の向き

③「あっ、その発表の仕方は総合のプレゼンに繋がるねえ。」等の声掛け



イ 様々な体験や指導を通し「個」を強くする。 → 外側(環境)からたくましく

(ア) 様々な体験活動(経験値の向上)

・授業における体験学習、人材活用、外部と積極的に交流する。

・授業中の教師による説明を少なくし、生徒が話す機会や自力解決の場面を増やす。

(イ) 適切な指導

・以下のことを様々な場面で、適切に指導する。

「雨が降っていても危険でなければ自力で登校」「簡単に忘れ物を持ってきてもらわない」「宿題等がやってなくて学校を休む×」

・高いアンテナをはり、迅速なストレスを除去する。

・人間関係プログラム、学級活動や道徳での意識した指導



ウ 魅力ある学校づくりの実践

(ア) 学級、学年、学校単位で行える楽しい取組を実践する。→春のミニ遠足 等

(イ) 計画的な「居場所づくり」と「絆づくり」をPDCAサイクルで実践する。

(ウ) 成果指標における肯定的評価の内、「当てはまる(4)」の割合を増やす。

→「たくましさ」が育ち、不登校が少しずつ減少する。

【指標】学校が楽しい…95%以上

(3) 柱3 学力向上

ア 学力向上プロジェクト

- (ア) 益川教授を招聘し、本校の授業改善を図り、学力向上を目指す。
 - ・年間複数回の授業見学、指導と最新理論に係る講話 等。
- (イ) 関連業者提供による効果的なICT教材の活用(凸版、学研、ヤマハ等 多数)
 - ・授業や家庭学習に活用、有効なアプリ研究 等。
- (ウ) スキルアップ講演会、市教委指導主事の活用、計算SP、〇〇検定、AI搭載アプリ自主学习、岳中放課後学習会 等。

UP!!



イ 岳中式「きく・が・わ授業」の実践

- ・ **仲間の方に体を向けて真剣に、「聴く(きく)」** →聴く力の育成
まずは聴く力の育成が学力向上の源。傾きながら、イメージを膨らませる。
- ・ **自分の考えやまとめをたくさん「書く(が)」** →書く力の育成
書く力の徹底育成。学習内容定着アップのため、文字言語でアウトプットする。
- ・ **大きな声でわかりやすく「話す(わ)」** →対話する力・説明する力の育成
プレゼン能力の育成。根拠や理由を明確にして発表。前に出て説明。

ウ 協働学習(岳中対話)の効果的な実践 ※ネームプレートやホワイトボード活用

- ・音声言語(会話)で学習をつなげる、広げる。
- A **自由対話**…仲間と交流し、自分の考えを確認・深化・変容させる対話。
→個人学習後、席を出て自由に「仲間の意見を聞く」「自分の意見を伝える」
- B **グループ対話**…等質(異質)グループで意見交換し、自分の考えを確認・深化・変容させる対話。
→個人学習後、目標達成の近道として、ジグソーやグループ内意見交換。
- C **ペア対話**…全体意見の停滞時や個人差がある状態で、現状打破のための対話。
→いろいろな場面が想定されるが、やり過ぎには注意する。

エ 「まとめ」の充実 ※「音で広げて、文字で刻む」

文字言語で学習を深く刻む。わかりやすく蓄積する。

- (ア) まとめ(振り返り)の重要性 →「何となくわかった」にしない。
 - ・個人学習…熟考したことを「文字言語」にすることで、より確かなものに。
 - ・まとめ…わかったことを「言語化」することで、理解力向上や新たな発見に。
- (イ) まとめの書き方
 - ①板書を参考にして ②仲間の発表を参考にして ③キーワードを使って
 - ④文字数を制限して ⑤さらに考えてみたいこと
- (ウ) まとめの扱い
必ず発表 → 板書して青囲み → 生徒は追記



→ **学力を向上させて、自分に自信を持つ。(自己肯定感向上、不登校減少)**

【指標】・全国学力学習状況調査…平均正答率を上回る

・授業がよく分かる …90%以上

(4) 柱4 自治活動の充実



ア 生徒提案による主体的な生徒会活動

(ア) 年間(または一つの光輝)で取り組む重点事項を設定。

(イ) 各ステージPDCAサイクルで行う。

P①本部で原案を練る。

②連合委員会で小柱を設定し、原案について話し合う。(第〇火曜日の放課後)

③専門員会で、②で決定したことを確認する。→各専門委員が学級へおろす。

D④-1…各専門委員会、各学級、生徒一人一人が実践する。

-2…本部や各委員会が、放送や掲示で周知する。

C⑤-1…重点事項の達成状況アンケート(達成度総選挙)をとる。

-2…結果を「生徒集会」「放送」「掲示」等で全校生徒へフィードバック。

A⑥本部や連合委員会で、結果をもとに改善の手立て。→次光輝の①②③へ

(ウ) 点検活動や当番活動も大事だが、生徒の手によるクリエイティブな活動を。

例) 残食チェック→「栄養ってすごいぞ動画」「給食C職員の苦労インタビュー」
「先月残食データによる今月の強化食材なにこれ」

(エ) その他

・輝ごとの達成おめでとう集会 ・生徒会掲示コーナーの充実。

イ リーダー、フォロワー育成

理想は教員が一言も注意しなくても、日常や行事等において、全校生徒・全学級が自分たちで呼びかけ合って行動する集団の育成。

(ア) 上述達成のための日直班活動(リーダー、フォロワー育成)により、自治活動の意識を向上させる。

- ・リーダーとフォロワーの啓発プリント&説明
- ・毎日の帰りの会で、リーダーぶりとフォロワーぶりを確認、承認。
→1週間で交代できるよう、お互いのために必死になって取り組む。
- ・呼びかけ活動→2分前に「席ついて」の声、日直班(リーダー)と他の生徒(フォロワー)等、学級の全員の声が響きわたる。

(イ) 日直班はリーダーゆえ、以下のこともプライドを持ってやり切る。その結果、放課後は全教室が整然とし、教員は確認して称揚するのみ。

- ①移動教室の戸締り、電気消し、②放課後の窓締、戸締まり、カーテン絞り、
- ③ロッカーの整頓、④机の整頓、⑤ゴミ掃き、⑥教室の追い出し等を行う。

ウ 清掃活動に全力

(ア) 清掃活動は全職員が率先垂範し、徹底した活動にする。

(イ) 全力の「黙働清掃」と、時間いっぱいまでの「見つけ清掃」。

(ウ) 「きれいなトイレ総選挙」や「学校できれいなところ写真展」等の実施。

(エ) 清掃場所交代のローテーションを全校で統一する。

→ **自ら日常生活の課題を見つけ、解決する力を向上させる。**

【指標】みんなのために自分から考動することができた…90%以上

①上記の「4本柱」実践することにより、重点目標が達成できる。

②これらを徹底した「PDCAサイクル」で実践する。

③「見える化」と「情報発信」を心掛ける。

「目標は常に見えるところに掲示する。そして、取組の確実な振り返りと、適切な再構築ができれば、目標は達成される。」

3 その他

(1) 主体的な行動に係る取組→「ノーチャイムデイ」

ア 毎週水曜日は、ノーチャイムデイ。

イ 生徒の主体的な行動実践の場とするとともに、自治活動である「呼びかけ活動」をより活発にするために行う。この活動を成功させ、称揚の場とする。

(2) 業務改善

ア 多忙感解消の為、ゆとりある教育計画とする。月曜日は5時間日課で週28コマ。

イ 全体の会議は水曜日のみ(最大1時間)。月曜日は「学年・学級の日」とし、放課後は学級(学年)の計画で運営する。

ウ 「集中」と『ゆとり』の使い分け→「合唱強化週間」「成績事務週間(採点事務日)」

エ 業務改善提案

より楽しく業務改善提案を→校長賞あり。

オ その他

お楽しみ会の計画、プレミアム○○デイ、光輝目標達成お祝い教職員版



4 目標値

- | | |
|--|---------|
| (1) みんなのために「自分から考行動する」ことができた | →目標 90% |
| (2) わたしには良いところがある | →目標 90% |
| (3) 学校が楽しい | →目標 95% |
| (4) 授業がよくわかる | →目標 90% |
| (5) 学校に信頼することができる先生がいる | →目標 90% |
| (6) みんなで何かをするのは楽しい | →目標 95% |
| (7) 授業に主体的に取り組んでいる | →目標 95% |
| (8) 地域や社会を良くするために、何をすべきかを考えることがある | →目標 80% |
| (9) 学級の生徒との話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う | →目標 90% |
| (10) 授業では、コンピュータなどのICTをどの程度利用したか。 | →目標 99% |